

牛群検定通信 No99

～ 暑い夏を乗り切ろう！ ～

関東甲信越地方では6月29日に梅雨明けし、観測史上最も早い梅雨明けとなり暑い日が続いています。今年は全国的に暑い夏となりそうです。繰り返し聞かれていると思いますが、暑熱対策を再点検してください。

1 気温表示（カウダス）

検定成績表に表示されている気温は、我が国の誇る気象観測システムであるアメダスによるものです。牛舎の気温ではありませんが、あなたの牧場から一番近いアメダス（平均10km程度）の気象情報をカウダスとして表示しています。気温については、最高、平均、最低が表示され、降水量、日照時間も表示されています。これらは暑熱対策の目安として利用することができます。

- ・最高気温が24度以上になると乳量が下がり始めます。
- ・平均気温が23度以上で初産牛、21度以上で2産以上の牛の乾物摂取量が減少します。

2 送風扇（扇風機）

代表的な暑熱対策です。近年では多くの農家で見られるようになってきました。牛の首まわりは体表温度が高い部位なので、特に風が当たるようにすると効果的です。体感温度への影響を、家庭用扇風機のおおよそ1m程度の距離で示しますと、次の通りです。

扇風機：弱 風速約1～2m 体感温度：気温より約6度下げます

扇風機：中 風速約2～3m 体感温度：気温より約8.5度下げます

扇風機：強 風速約3～4m 体感温度：気温より約10.4度下げます

気温30度となる真夏日でも効果的に風を当てれば、体感温度を24度以下に下げることが出来き、乳量減少を下げずに済みます。

3 夜間の送風

夏季であっても夜間の気温が22度以下となれば、乳量の減少を緩和できます。都府県の多くの地域では7, 8, 9月には熱帯夜と呼ばれる最低気温が25度以上となる寝苦しい夜がありますが、夜間も送風を行い体感気温を22度以下とすれば牛たちも十分に休めて、乳量減少を最小限にできます。

4 十分な飲水

送風扇と並んで暑熱対策の大きな柱が飲水になります。乳量40kgの場合は、飲水は120kg必要とも言われています。ウオーターカップの汚れや詰まりは、特に気をつけてください。繋ぎ飼いの場合、産次を重ねた大きな牛と初産牛をウオーターカップの共用とすると、初産牛が十分に飲水できないこともあります。フリーストールの場合でも、十分なスペースを取った適切な水槽の設置が必要です。水槽の汚れは、特に気をつけてください。十分に飲水が出来ない場合、唾液分泌が減ることから反芻が減り、食欲減退を招き、泌乳量低下をはじめルーメンアシドーシスや蹄葉炎を誘発させてしまうことが知られています。